

(7 -) 電線・ケーブル

15 / 14 16 / 15 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; ● 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成15年度は、通信・電力部門では、N T T及び電力各社の設備投資抑制の影響により低水準での推移となったが、一方、建設・電販部門は住宅投資の増加により堅調に推移。また、電気機械部門においても生産拠点を海外に移転するなど構造的な問題があるもののデジタル家電等が好調なことからほぼ横ばいで推移した。自動車部門もアジア向けを中心とした輸出の好調を受けて国内自動車生産が増加したことにより堅調に推移した。なお、光ファイバはN T Tからの受注の鈍化から低調に推移した。

今後の見通しとしては、電線・ケーブルについては、景気に回復の兆しが出てきたことや自動車・デジタル家電の好調が続くとの見方から、これらが牽引し、僅かではあるが増加すると見込まれる。一方、光ファイバはN T Tからの受注が今年も低調と予想され、低水準で推移する見込み。

(2) 生産・設備稼働

15年度におけるメタル電線の出荷量は、通信向けが8.5%、電力向けが12.1%と減少したが、一方、電気機械向けが0.1%、自動車向けが5.1%、建設・電販向けが5.3%。(いずれも対前年度比)と増加したため、全体としては、ほぼ昨年並みとなった。光ファイバは、需要減に歯止めがかからず、前年を下回る水準で推移している。

(3) 企業収益

電線主要企業の経営動向(大手6社連結ベース)(単位:億円、%)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度
売上高	31,925	30,627	31,524
営業利益	725	62	692
経常利益	514	402	622
純利益	128	1,591	1,261
経常利益率	1.6	1.3	2.0

平成15年度決算では、光ファイバケーブル及び光関連部品を中心とした情報通信関連製品の需要の減少したものの、デジタル家電関連や自動車関連が大幅拡大したことから、売上高は前年同期比で増加した。損益面では事業構造改善の実施による人件費削減などの固定費圧縮が効いて経常利益は黒字計上と改善した。なお、純利益では希望退職、固定資産等の処分損などの事業構造改善費用が嵩み、有価証券売却益や不動産売却益を上回ったため、若干改善はしたが、赤字となった。

2．設備投資動向

電線・ケーブル製造業の設備投資動向（単位：百万円、％）

	14-15共通回答企業		15-16共通回答企業		15/14	16/15
	14年度	15年度	15年度	16年度		
電 線	12,804	14,982	14,982	16,373	117.0	109.3
光ファイバ	3,260	2,523	2,523	372	77.4	14.7

(1)これまでの設備投資の推移

メタル系の電線ケーブルへの投資は景気回復基調を受け、前年より増加した。特に平成15年度は、生産能力の増強のための設備投資が行われた。一方、光ファイバ及び光関連部品などの情報通信関連製品の需要が大幅に減少したため、投資は減少傾向にあり、維持・更新程度への投資にシフトした。

(2)平成16年度の設備投資計画

メタル系電線に関しては、業績の回復予測を受け、15年度に比べ、増加する企業が増えた。特に生産能力の増強、研究開発、環境保全等への投入に積極的な動きが見込まれる。一方、光ファイバ関係について、需要が引き続き低調な推移が予想されることから、投資は大きく減少すると見込まれる。

3．長期資金調達・運用動向

15年度は、設備投資に若干の持ち直しがみられたものの、資金需要はほぼ同水準で、内部調達を中心とした資金運用が行われた。16年度は前年と比べて借入金の償還が減少するが、社債の償還が増加するため、資金需要は増加となる見込み。また、一部民間金融機関等からの借入れを行う動きも見られるものの、依然として内部調達を中心とした資金運用が行われる見込み。

（グラフ1：設備投資の前年比の推移）

電線・ケーブル製造業（光ファイバーケーブル含む）

